

# 地域支援だより

東京都立町田の丘学園校長  
茂木 裕之  
相談支援部

第4号 令和2年2月21日発行



## 共生地域の実現に向けて

～交流と学び、特別支援教育センター校としての取組～

記録的な暖冬や雪不足で何かと話題の今年の冬ですが、少し早めに咲き始めた凛とした梅の花の姿がうれしい季節です。子供たちも先生も卒業・進級に向け、1年間のまとめに取り組んでいます。

### 交流

町田の丘学園は、町田市1市を通学区域とする特別支援学校です。そのため、町田の丘学園と町田市との連携は強く、今年も副籍交流や学校間交流などが活発に行われました。今回の地域支援だよりでは、交流の様子を特集してお送りいたします。

また毎年継続して交流をしていると、こんな支援が有効だった、こんな道具を用意すると盛り上がった・・・などという素敵なアイデアが次々と出てきます。それをそれぞれの学校だけの取組にしておくのはもったいないので、町田市では毎年、交流先の小中学校の先生と町田の丘学園の先生が協力して「合理的配慮」をまとめた「副籍報告集」を作っています。副籍で子供たちを受け入れてくださっている学級担任の先生と、子供たちの特徴をよく知っている町田の丘学園の先生が両者の立場で活動の様子や行っている工夫を書いているのが特徴です。その原稿を読んでいると、みんなで心に響く交流を作り上げているのだな、と改めて感じられます。副籍交流をする子供たち、一人一人は特徴があるので、毎回子供に応じた工夫を考えていくことは必要ですが、柱になる部分の活動は着実に積み上げられています。「副籍報告集」が手元に届きましたら、是非目を通してください。

### 学び

また、町田の丘学園ではセンター的機能の一つとして、地域の皆様に障がいのある子供たちの支援方法について、多彩な研修機会を御用意しています。毎年、夏休みに行っている地域支援セミナーもその一つですが、体験型のワークショップにも取り組んでいます。今年度は町田の丘学園の保護者の方を中心に認知行動療法のワークショップ「ふわっと心が軽くなる～いやな気持ちにサヨナラする方法～」 「ふわっと心が軽くなる2～自分の心を描き出そう～」を5月と9月に行いました。

こうした体験型のワークショップは非常に御好評をいただきましたので、来年度は地域の保護者の方や放課後デイサービスの支援員の方などにも対象を広げ、地域全体で子供たちを支援していくことを目指したいと思います。

内容は「子供の行動は注目が変わる」「気になる子供との関わり方」など、保護者の方や放課後デイサービスの支援員の方などが、すぐに使える具体的な支援テクニックのトレーニング講座を予定しています。御興味のある方はホームページ等を御覧になってお申し込みください。



# 交流及び共同学習1 <学校間交流>

今年度新しい交流校である鶴川第三小学校4年生と、12月6日に山崎校舎で交流しました。

「ドキドキしている」という声があちらこちらから聞こえました。鶴川第三小学校の4年生の男の子の声です。玄関で靴を履き替えている間の出来事ですが、各教室に入っていくと、鶴川第三小の司会役の児童を中心に、どの教室でも自己紹介が始まり、緊張感のある子の表情も少しずつ変わってきているように見えました。交流をする前に本校の同じグループの児童に名前カードを作ってくれています。当日、緊張しながら鶴川第三の児童が、本校の子供たちに名前カードをやさしく貼ってくれました。一方、本校の児童は、慣れた教室ですので、「ホーム」の環境です。名前カードを胸に貼ってくれているのをじっと待ち、とても嬉しそうでした。

教室でのゲームの交流やプレイルームでの各校の発表やダンス。このような交流を、子供たちは心待ちにしていました。

教室からプレイルームまでの道のり。「ぼくが案内する」という様子の後ろ姿もありました。

(下図1・2)プレイルームでの、学年の発表。数年前からの内容ですが、学年で練習した表現を、目の前の新しい友達(鶴三小)に披露している姿も立派でした(下図3)。



下図1



下図2



下図3

新しい交流校金井中学校との交流は、3月5日(木)に山崎校舎の2階ホールで行われます。この交流は「交流教育連絡会第2回」と重ねた日程であるので、共催の町田市教育委員会をはじめ交流教育連絡会メンバーである各学校の管理職やPTAの方々も見学される予定です。

本校の山崎校舎の中学1年生と金井中学校1年生の選抜メンバーの交流で、総勢約50名が、各校の歌や発表、ゲームやダンスで知り合う時間を共有します。

そのための準備として、金井中学校の1年生に向けて理解推進授業を実施し、選抜メンバーの生徒に向けてさらに、出前授業をしました。本校1年生の得意なこと、苦手なこと、交流の内容などを伝えています。当日の交流を多くの方々の輪の中で、温かく見守ってほしいです。

## 学校間の作品交流

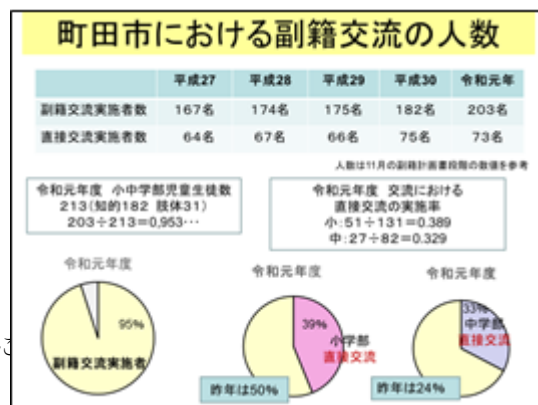


今年度 金井中学校の作品を  
本校の「まちだ祭」で展示しました。

# 交流及び共同学習2＜副籍交流＞

今年度の副籍交流は、右図のような状況で、小学部の直接交流は、昨年より少し減少しました。高学年になるにつれて、交流が難しいというケースもあります。電話やFAXでその都度、副籍校の担任と本校担任で調整し、工夫し進めています。

一方、今年度中学部では直接交流が増えました。小学部時代から続けているケースが継続されています。副籍校生徒の心の成長と共に交流の考えも変化があるようです。また、今年度は、中学校の担任が学校公開時に本校の副籍生徒の町田の丘学園での様子を見てみたいと見学に来られたケースもありました。



昨年度、肢体不自由教育部門で中学校と副籍交流をしていた生徒が、卒業に際して学年全体向けにお伝えしたメッセージを紹介したいと思います。この生徒さんは自分では言葉が話せないで、仲の良いお友達に代読してもらいました。

〇〇小学校での6年間。そして〇〇中での3年間。  
9年間、副籍交流の生徒として一緒に時間を過ごしてきました。  
今日は締めくくりのメッセージをお伝えします。

## 副籍交流の目的

- 1 実際にハンデを持つ人の存在を身近に感じてもらうこと
- 2 実際にハンデを持つ人がどんなことが大変で苦勞であるか。正しく知ってもらいたい。
- 3 自分の姿を身近にみて、皆さん自身の、当たり前すぎる五体満足である事にありがたい事だと認識してもらうよい機会

## 僕にとっては

- 1 もしも病気にならずに元気で、普通に地域の小中学校に通っていたら、どんなことをしているのかな。と知ることができる。
- 2 こんな僕が、この町に住んでいるんだよ、と知ってもらえることができる。

町内会のお祭りとか、声をかけてもらえることがうれしい事でした。今年度は行事も受付の生徒欄に名前があったことはとてもうれしい事でした。

そして小1から学童などで一緒だったお友達からは、〇〇君、いろいろできるようになったねえ。わたしもがんばるね〜と。

皆さんは、僕がやりたくてもできない事、会話をする、読む。書く、走る、食べる、学ぶこと、自由に遊ぶ事、などなどたくさんことができます。僕に分まで、エネルギーを使ってしてください。

2020年東京パラリンピックの時に、国内外のハンデを持つ人が多種多様の競技をする姿を見るでしょう。その時にこの副籍のことを思い出してもらえると嬉しいです。そして選手たちをはじめハンデキャッパーたちの背景に、頭や心を思いめぐらせてくれると嬉しいです。

9年間ありがとうございました。

その他、中学校で理解推進授業を行った後の生徒の感想の一部を紹介します。

〇〇くんととの交流が楽しみでした。6年生の頃にクラスで一緒に行ったことがあるので、また会うのは、楽しみです。

〇〇ちゃんとは、同じA小学校でした。そして、音楽が好きなことも同じでした。音楽は音の高低差や声のトーンで言語が分からないときでも、感情が伝わってくるので世界共通です。音楽好きな〇〇ちゃんと、もっと仲良くなりたいです。

今日の話聞いて障がいをもった方々が平等に暮らすためには、互いに認め合うことが大切だと思いました。これからは自分にできることを見付けて、サポートできるようになりたいです。

町田の丘学園の友達が、私たちができないようなことをしていて、町田の丘学園の人たちってすごいなあと改めて尊敬しました。

今回の話を聞いて、一人一人に素晴らしい力があるということに気付きました。1つのことに集中し頑張る力は私も身に付けたいと思ったので、そういうことを、そのことを町田の丘の友達から学ぶことができました。最初は話したり交流したりするのに、勇気が必要だけれど、気軽に話し掛けてもらえば良いなと思います。これからよろしくお願いします。

町田の丘学園について、話を聞き知ることができました。私たちと同じようなところがあれば、違うところもありました。その人その人に合った工夫をしながら、生活していることも分かりました。そして、一番はコミュニケーションが大切だと思いました。みんなとたくさん、コミュニケーションも楽しみたいです。

「みんな違ってみんないい」ということを改めて思いました。人それぞれ違う生き方があるからこそ、そこに楽しさがあるのだと思いました。今回、とてもいい経験ができました。どうしたら相手に伝わるのかなどを知り、より世界の人や他の人とコミュニケーションを取りたいと思いました。

今回の授業を通して感じたことは「工夫」についてです。目が見えなかったらどうするか、耳が聞こえなかったらどうするか、一人一人に工夫があつてすごいと思いました。言葉を上手く伝えられなくてもカードなどで伝える工夫はとても素敵だと思います。カードでの会話は難しそうだけど、面白そうだなあと思いました。一度やってみたいです。(町田の丘学園の生徒が作成した)マウスパットやコースターなども一つ欲しいと思いました。カラフルでとても可愛かったです。

担任や特別支援教育コーディネーターが、交流に際して理解推進授業をすることがありますが、その中には、保護者も積極的に参加され、保護者の話を伺うという場面も増えてきました。

副籍交流は、学校によって地域によって様々な状況がありますが、町田のこの地域を大切に思い、連携しながら、できることを精一杯進めていければと思います。